

都市再生整備計画 事後評価シート(案)
出島・銅座地区

平成25年1月

長崎県長崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県		市町村名	長崎市		地区名	出島・銅座地区		面積	252 ha			
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	1,406.9 百万円		国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名											
		基幹事業	道路:市道出島町龍町1号線、市道銅座町3号線、市道銅座町新地町1号線、市道伊勢町大浦町線、地域生活基盤施設:(仮)銅座川河川広場										
		提案事業	地域創造支援事業:河川護岸修景整備										
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	地域生活基盤施設:情報板					・市単独事業で実施するため、関連事業へ移行			関連事業として実施するため、目標、指標への影響はなく、数値目標は据え置く		
		提案事業	なし					-			-		
	新たに追加した事業	基幹事業	道路:市道出来大工町江戸町線、市道浜町油屋町1号線 地域生活基盤施設:休憩広場 高質空間形成施設:カラー舗装 高次都市施設:(仮)上長崎地区ふれあいセンター(地域交流センター)					道路:歩行者の安全確保、回遊性・利便性の向上を図るため追加 地域生活基盤施設:滞留空間としての魅力の向上を図るため追加 高質空間形成施設:歴史・文化・観光・賑わい拠点をつなげる軸の安全性向上を図るため追加 高次都市施設:地域交流の核となる拠点を整備し、地域住民の運搬の高揚を図るため追加			・まちづくりの目標達成に向け、プラスの影響があるが、目標も指標も据え置く ・地域交流センター整備事業は、地域の賑わい向上が見込まれるため、「目標2:新たな歩行者滞留空間の整備による賑わい空間の創出」を定量的に評価する指標として「(仮)上長崎地区ふれあいセンター利用者数」を追加した		
		提案事業	地域創造支援事業:休憩広場整備、地域環境改善社会実験、回遊性向上事業、修景デザイン計画作成、まちなみ整備事業、出島行事開催費、地域情報発信事業、地域交流センター事業活用調査:事業効果分析調査					地域創造支援事業:歩いて楽しいまち歩き環境の形成や景観形成を図るとともに魅力の情報発信を図る事業により、回遊性の向上と賑わいの創出を図るため追加 事業活用調査:アンケートを含めた事後評価を実施するため追加			・まちづくりの目標達成に向け、プラスの影響があるが、目標も指標も据え置く ・地域交流センター整備事業は、地域の賑わい向上が見込まれるため、「目標2:新たな歩行者滞留空間の整備による賑わい空間の創出」を定量的に評価する指標として「(仮)上長崎地区ふれあいセンター利用者数」を追加した		
		交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
	変更	-											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度		目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	河川周辺の景観に対する満足度	%	21.0	H19	50.0	H24	-	75.8	○	あり なし	新地橋広場及び河川護岸の整備、並びに周辺道路の整備及びカラー舗装化等により、河川周辺の景観が向上し、満足度が高まったと考えられる。	-
	指標2	河川周辺の道路空間に対する満足度	%	18.5	H19	50.0	H24	-	72.8	○	あり なし	張出歩道の整備等による快適な水辺の回遊空間の創出、周辺道路の整備、カラー舗装化による安全な交通空間の確保により、歩行者の安全性と快適性が向上したため、道路空間の満足度が高まったと考えられる。	-
	指標3	地域の集客力に対する満足度	%	15.3	H19	50.0	H24	-	39.5	△	あり なし	● イベント会場等の賑わいの場となる新地橋広場の整備や長崎の歴史的特長を活かした景観整備等により、集客力に対する満足度は約15%から約40%と増加し、一定の効果はあったと考えられる。	平成25年9月末
	指標4	新地橋・中通り・新大工の歩行者交通量	人	16,466	H18	17,100	H24	17,092	15,173	×	あり なし	● 歩行者交通量は、歩行空間の充実及び歴史・文化・観光拠点をつなげる動線の強化を目指した計画初期段階の整備やH22年に放送を控えたNHK大河ドラマ「龍馬伝」ブームや軍艦島の上陸解禁等の効果もあったことから、H21年度には一時、目標値(17100人)を達成した。しかし、その後はH9年度から続く減少傾向の中、歩行者交通量の維持ができず、目標値は達成できなかった。	平成25年7月末
指標5	(仮)上長崎地区ふれあいセンター利用者数	人/年	-	-	26,000	H24	-	27,018(参考値)	- (対象施設未整備)	あり なし	● 同施設の利用者数は、未完成のため計測できないが、地域住民と協働し整備計画が検討されていることや、また、人口減少の中、既設の同規模の市内14館の年間平均利用者数が増加していることを考慮すると、同施設が完成した場合、目標は達成見込みであると考えている。	平成26年4月末	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度		目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	長崎市観光客数	万人	564.1	H19			-	611.8			歴史的まちなみの景観整備や、イベント会場等の賑わいの場となる新地橋広場の整備等の賑わい創出により、本市の観光客数の増加に寄与した。	平成25年4月末
その他の数値指標2	新地橋・中通り・新大工の歩行者交通量(11月イベント時)	人	16,466	H18			17,092	20,008			集客効果のあるイベント時では、まちなみを活かした板石舗装やカラー舗装等の歩きやすい道路の整備により、地区内に点在する歴史・文化・観光拠点をつなげる動線が強化され、まちなかの回遊性が向上した結果、歩行者交通量が増加したと考えられる。	-	
4) 定性的な効果発現状況	計画区域拡大により追加された中島川・寺町地区、大浦地区へのアンケートは、「当計画による事業が公共空間の環境向上につながった」とする回答が78.3%と、高い満足度であったことから当計画による一定の効果はあったと思われる。また、「地域の問題や、今後のまちづくりについて考え、地域のつながりを高める要因になると思う」とする回答が80.0%と高く、自由意見の中にも「ハード整備は進んでいるので、観光地として地域住民のおもてなしやイベント等との連携が必要」といった意見もあり、観光地としてのまちづくりの機運向上が図られ、今後はより質の高い観光地への成長が見込まれる。												
5) 実施過程の評価	実施内容						実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	指標2「新地橋・中通り・新大工の歩行者交通量」に関するモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた							● 今後も同様に継続していく。			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							●			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	「(仮)上長崎地区ふれあいセンター」建設に関する検討委員会の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた							● 今後も地域住民と連携しながら、同センターの運営を行っていく。			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							●			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
住民参加プロセス	県営銅座駐車場撤去後の整備計画に係る地元との意見交換会の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた							● 広場等の活用について、今後も地域住民と連携しながら行っていく。				
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	(仮)上長崎地区ふれあいセンター運営委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた							● 今後も地域住民と連携しながら、同センターの運営を行っていく。				
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							●				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

出島・銅座地区(長崎県長崎市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標：中心市街地にふさわしい、市民及び観光客に対して快適性と安全性に優れた都市空間の創出 目標１：歩行者空間の環境改善整備による安全性・快適性の向上 目標２：新たな歩行者滞留空間の整備による賑わい空間の創出 目標３：歩行者動線の整備による新たな観光拠点の整備	河川周辺の景観に対する満足度	単位：% 21.0 H19	50.0 H24	75.8 H24
	河川周辺の道路空間に対する満足度	単位：% 18.5 H19	50.0 H24	72.8 H24
	地域の集客力に対する満足度	単位：% 15.3 H19	50.0 H24	39.5 H24
	新地橋・中通り・新大工の歩行者交通量	単位：人 16,466 H18	17,100 H24	15,173 H24
	(仮)上長崎地区ふれあいセンター利用者数	単位：人／年 — —	26,000 H24	27,018(参考値) H24

目標1：歩行者空間の環境改善整備による安

張出す歩道の整備(新地橋周辺)

カラー舗装・歩道整備(銅座町新地町1号線)

速度抑制社会実験(寺町・中通り地区)

他、河川護岸修景整備、回遊性向上事業等

出島・銅座地区252ha

**目標2：
新たな歩行者滞留空間の整備
による賑わい空間の創出を図る主な事業**

新地橋広場の整備

ランタンフェスで賑わう新地橋広場

上長崎ふれあいセンター(地域交流センター)

他、休憩広場整備、出島行事開催、地域情報発信事業等

**目標3：
歩行者動線の整備による新たな観光拠点の整備を図る主な事業**

板石舗装の復元

まちあかり社会実験

まちなみ整備事業

他、道路事業、新地橋広場の整備、修景デザイン計画等

まちの課題の変化

◇銅座川周辺の張出す歩道やカラー舗装による歩車分離により歩行者空間の安全性・快適性が向上した。今後は、地区全体の回遊性を高めるために、各地区の特性に合わせた回路路や、公共トイレ、誘導案内板などの整備を図る必要がある。

◇新地地区には、イベント等の多目的に利用できる新地橋広場ができ、市民や観光客の憩い空間や交流の場が確保された。しかし、まちなかのその他の地区にも賑わい創出を図るためには、市民や観光客の交流の場が必要としている。

◇中島川・寺町地区においては、まちなみ整備事業等により歴史的まちなみの景観の維持が図られているが、まちの魅力特徴づけている歴史建造物の活用については、不十分であるため、歴史建造物の活用に取り組み、魅力の顕在化を図る必要がある。中島川・寺町地区以外の中島の魅力的な建物として活用し、まちなかの魅力を顕在化を図る必要がある。

◇今後の賑わいの創出には、まちなかの拠点施設、広場の整備やそれらを活かしたイベント開催等のソフト施策が必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【まちなか回遊を促す安全で快適な歩行空間の整備】 まちなか全体さらなる回遊性向上のため、安心して快適にまち歩きができるように、まちなか軸を中心とした回路路の整備や公共トイレ、誘導案内板の整備を図る。

【新たな拠点施設を活用した賑わいの創出】 整備した新地橋広場や、(仮)上長崎地区ふれあいセンターを活用したイベントの開催等により、賑わい創出を図る。

【賑わいと交流の拠点となる施設や広場の整備】 まちなかのさらなる賑わい創出を図るため、市民や観光客の交流の場となる拠点施設や広場の整備を図る。

【歴史的まちなみや建造物の保存や活用によるまちの魅力向上】 現在、中島川・寺町地区で実施している歴史建造物の保存及び建造物等の修景に係る助成やまちなみ修景計画の作成をまちなかの他の地区でも実施し、まちなか全体での特色ある歴史的まちなみや建造物の保存・活用に取り組み、魅力の顕在化を図る。